真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月12日

事務事業名	芸術文化振興事業(児童生徒)		担当課・係	教育委員会　文化課　文化振興係
政策名　No	1	「人づくり」～豊かなこころアップ！～	関連するSDGs･DX	
施策名　No	7	文化芸術の振興と文化財の保護・継承		

	名　称	単　位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11	目標値 R11
成果指標	ワークショップフェスタ参加者数	人	36					
	子ども学芸員への申込者数	人	6					
	移動音楽鑑賞教室参加者数	人	723					
	指導者派遣回数	回	27					

事業内容

"①ワークショップフェスタ・子ども美術館開催事業
美術評論家久保貞次郎氏の提唱した「創造美育」の子ども中心主義の理念を継承し、本市の特色ある美術教育の取り組みを発信するとともに、子どもたちが美術に親しみ、文化芸術への関心を高めることを目的としている。
幼児から中学生を対象に、自由に創作活動を行うワークショップフェスタ・子どもが独自の視点で作品を鑑賞した上で、キャプション制作やギャラリートークなどの美術館の仕事を体験する子ども学芸員・ワークショップフェスタで制作した作品やキャプションを美術館へ展示するもおか子ども美術館を一連の事業として実施している。
②移動音楽鑑賞教室実施事業
環境の整ったホールで優れた音楽の鑑賞機会を中学生に提供している。
市内全中学2年生を対象として実施している。
③子ども未来育成事業
本市の将来を担う子どもたちを健全に育成し、子どもたちの音楽などに親しむ環境を創出するために、市内小中学校吹奏楽部の児童生徒及び吹奏楽指導者の資質向上を目的に、各学校の求めに応じて吹奏楽の指導者を派遣する。

前年度の課題（Check）

"子ども学芸員申込数の増加につながる周知に努める。
移動音楽鑑賞教室は、コロナの影響に伴い参加する学校数を限定して実施。次年度より市内全中学２年生の参加とする。
子ども未来育成事業は利用学校が固定されつつある。部活動地域展開の動向も注視しながら事業のあり方を検討する必要がある。

7年度振り返り

【１】実績（Do）７年度に実施した事業
"①（ワークショップフェスタ他）
ワークショップフェスタ４月２０日（日）久保講堂、「子ども美術館Part１」４月２６日（土）～２９日（火・祝）久保講堂、「子ども美術館Part２」６月１９日（木）～８月４日（月）久保記念観光文化交流館美術品展示館、子ども学芸員によるギャラリートーク７月２０日（日）

②（移動音楽鑑賞教室）
市民会館において、全中学校２年生を対象として音楽鑑賞会を実施。

③（子ども未来育成）
岩原　厚男氏（元真岡高校音楽教諭）を講師として、要請により学校派遣を実施する。"

【２】結果と課題（Check）
ワークショップフェスタと子ども学芸員作品鑑賞会を久保講堂で開催し、参加者増加を図った。
市内全中学２年生の参加とし、全9校の参加となった。
子ども未来育成事業については、派遣要請が減少傾向であり利用校が固定となっている。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　□ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　■ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【３】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

(1) ただちに取り組むべきこと
移動音楽鑑賞教室においては、実施方法について全中学一括開催か希望校開催か検討する。
子ども未来育成事業の指導者派遣回数の増加に向け、学校への周知を当初のみではなく年間通して行う。

(2) 長期的な計画で検討すること
子ども未来育成事業は、中学校吹奏楽部の地域展開も考慮し指導者派遣を検討する。